

海外研修報告書



卒後臨床教育センター 研修医 2年 稲井雅光

今回私は、Traveling Fellowship Residency Program (TFRP) 海外研修プログラムに応募し、1 ヶ月間ドイツ・フライブルク大学皮膚科病棟へ研修に行かせていただきました。この海外研修プログラムは 2007 年から開始され、我々で 8 期生となりました。これまでに海外研修を受けられた方々のお話から、このプログラムを受けたいと学生の時から思っていました。海外での生活は最大で 2 週間ちょっとの滞在期間が最長の経験であり、初めてのヨーロッパに 1 ヶ月ということで、とても興奮して準備をしました。

私が約 1 ヶ月住んだ街フライブルクは、正式名称をフライブルク・イム・ブレイスガウといい、ドイツの南西部、バーデン＝ヴュルテンベルク州にあります。隣の州はサッカーチームや BMW という車で有名なバイエルン州（州都：ミュンヘン）です。フライブルクは、ドイツの中でも環境問題に積極的に取り組んでいることで有名な街で、欧州の都市環境保護キャンペーンなどでも何度も賞を受けています。またフライブルク大学を始め多数の教育機関が存在し、街の人口の 15～20%が学生という屈指の学生都市でもあります。この研修中にフライブルグ市経済観光公社から環境問題に 40 年取り組んでおられる前田成子氏とお知り合いになることができ、フライブルクについての色々なお話を聞くことができました。前田様には市内の観光情報や、スイス Basel の情報などお助けいただき、大変お世話になりました。

7 月	Department/ward
1～4	Day Hospital
7, 8	Outpatient Department
9～11	Ward “Rost”
14～16	Ward “Jacobi”
21, 22	Allergy Department
23～25	Wound Healing/LASER Department

また、今後このプログラムなどでフライブルクに来られる方がいれば、環境のお話などもして下さるとのことです。

Hautklinik での研修は Day Hospital の見学から始まりました。Day Hospital は 12 年ほど前から開設され、ちょうど日本の老人介護のデイケアのようなもので、入院ではなく時間を決めて通いで処置や

診察を受けるというものです。日本ではあまり聞いたことがなく、とても斬新であると思いました。次に外来診療を見学しました。外来ではやはり問診が重要となるため、医師-患者の会話は当然ドイツ語です。私はドイツ語を勉強したことがないため、少しくじけそうになりましたが、全ての問診、診察が終了した後に英語で解説をしていただけました。英語が苦手な先生もいらっしゃいましたが、こちらも似たようなもので、あれこれ身振り手振りも交えて理解することができました。その次は病棟業務を見学しました。「ロスト」と「ヤコビ」という有名な医学博士の名前のついた病棟でした。ロストは内科系の病棟、ヤコビは外科系の病棟でした。病棟業務は日本とほぼ変わりなく、書類仕事が多い点も同じでした。続いてアレルギー外来のセクションを見学しました。ここではアレルギーに対して丁寧な問診や、プリックテストなどが行われており、患者一人一人について診察終了後丁寧に解説してくださいました。最後に手術、レーザー室の研修です。実際はヤコビ病棟やアレルギー外来などの空き時間には手術見学を希望し、見学させていただいていました。手術では生検などの小さなものから腫瘍切除+皮弁形成+リンパ節郭清といった大きなものまで行われており、何例か手洗いで見学させていただきました。手術は外来での問診と違い言葉の壁が少なく、いい研修ができました。

ドイツの病院では、業務の合理化が進められていると感じることが多かったように思います。日曜日は休日、バカンスはバカンスと仕事とプライベートをきっちり分けるところなど少しうらやましく感じました。そしてその週末を私も最大限利用させていただき、この研修のもう一つの大きな利点、欧州観光を楽しむことができました。ドイツ国内、フランス、スイスに電車を乗り継いで移動し、その土地その土地の食事を食べるという簡単なものでしたが、とてもよい旅でした。もう2度とこのような機会はないと思っています。

今回、海外研修に行かせていただくことができたのは、海外研修プログラム責任者である長谷川徹教授、植木宏明元学長をはじめ臨床教育研修センターの方々、当院皮膚科学藤本亘教授はじめ、皮膚科学皆様、研修先でお世話になった Prof. Tuderman、Freiburg 大学 病院皮膚科学スタッフの方々、現地での生活をサポートしていただいた皮膚科レジデントの Dr. Renzel、フライブルク市観光公社代表前田成子氏、ドイツでの生活の始まりをご指導下さいました印南恭子先生、研修の情報を提供して頂いた岡 大吾先生に心からお礼申し上げます。また、最後になりましたが、研修期間中にも関わらず、このような機会を与えていただいた臨床教育研修センター長 柏原直樹教授、園尾博司病院長、卒後臨床研修センター長中田昌男教授、福永仁夫学長、川崎誠治理事長をはじめとする川崎医科大学附属病院関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

